

令和7年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（126） 学校名 豊田市立稲武中学校

1 テーマ

広がれ！ 稲中生の夢と挑戦

～地域に働きかけ、地域から意欲的に学ぶ生徒の育成～

2 ねらい

稲武地区は年々過疎化が進んでおり生徒も減少傾向であるため、保護者や地域の方は若者が減少していく稲武地区の将来に危機感を抱いている。また、学校に対して「地域を大切に思う子を育ててほしい」「地域住民として活躍できる子を育ててほしい」という願いが一層強くなっている。そこで、生徒が地域の方々と連携して、地域の伝統、文化や産業などを見つめ直し、故郷への愛着を深める活動を展開したいと考えた。

本事業を通して、活力ある中学生の姿を地域に発信し、地域の活性化の一翼を担う学校を目指したい。

3 活動内容

(1)地域から学ぶ活動

- ①地域への愛着を深める活動（地域ボランティア活動）
- ②地域の産業や職場から学ぶ活動（職場体験学習）
- ③地域の人から学ぶ学習（ランプシェード作り、スキー・スノボ教室）

(2)地域へ発信する活動

- ①地域へ働きかける活動（学校祭・総合的な学習の時間）

4 成果と課題

(1)実践と成果

①地域から学ぶ活動

- ・休日や夏休み期間中を活用して、多くの生徒が地域イベントのボランティア活動に参加した。学校で4回募集をしたが、平均6割以上の生徒が参加する。生徒からは、「観光地としての良いところを発見した」「地域の方の地域を盛り上げようとする気持ちを感じた」などの感想を聞くことができた。
- ・2年生は稲武地区にある多種多様な事業所の中からそれぞれ1事業所ずつ選択して3日間の職場体験を行う。当日は、事業所の仕事を行うだけでなく、事前に用意した質問に沿って聞き取り調査も行った。事業所の方は、地元の中学生の体験ということもあり、あまり経験できないような仕事も体験させていただいた。事後のアンケートによると生徒たちの9割近くが「働いている人の苦勞や働くことの大切さなどが学べた」と答えた。

- ・地域の森林資材を有効活用してランプシェードに仕上げる活動を実施し、地域の文化や産業に触れる機会とした。また、講師から稲武地域の森林をどのように守り育てているか聞くことができ、地域の魅力や課題を再発見することができた。さらに、出来上がった作品を交流館主催の地域行事「ふれあいまつり」(10月)や「稲中フェスティバル」で展示することで、学校の取組を広く地域の人々に知っていただくことができた。
- ・地域の方をスキー・スノボ教室の講師として招いた。滑り方を教えていただいたり共に活動したりするなかで、講師の「地域の子どもを大切に育てていこう」という思いに触れ、地域で支え合うことの大切さを喚起させることができた。

②地域へ発信する活動

- ・本年度、体育祭、稲光祭(文化祭)を一つに統合して「稲中フェスティバル」とした。内容も地域の方々との触れ合いを大切にしたい行事にしようと生徒たちが検討を重ねた。体育祭の部では、地域の方々とのレクリエーションスポーツを取り入れた。また昼食の時間には、職場体験でお世話になった飲食店に出店していただいた。さらに文化祭の部では、ブース発表(ハンドマッサージ、砂絵、サイエンス)を通して地域の方との交流を深めたり、「稲武太鼓」の発表・体験を実施したりして、地域密着型の行事になった。学校保護者アンケートでは、「子どもが生き生きと地域に働きかける行事だったのでとても良かった」といった意見をいただいた。

③「特色ある学校づくり推進事業」に補助員を配置したことによる成果

【校内整備員】

- ・校務主任や校務手との連携をスムーズに行い、年間を通して体育館周りの除草や樹木の整備など校内環境を整えることができた。

(2)課題

本年度、学校行事や総合的な学習の時間などの内容が大きく変わり、年度当初の計画と異なる取組になることがあった。事業予算の変更については、全体の活動を見通して配分する必要がある。小規模校の機動性・柔軟性を生かしながら、稲武中学校ならではの取組を通して、地域と協働する生徒の育成を進めていきたい。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページを週に3回以上更新し、各活動の詳細をリアルタイムで紹介した。
- ・コミュニティ・スクール連絡会議(2回実施)の場で、生徒たちが取り組んでいる内容について写真を交えて紹介することで、地域からも意見をいただいた。
- ・保護者・地域の方々が参加できるような形の取組を実施して活動の様子をつぶさに見ていただくとともに、意見をいただける機会を設定した。